

決算からみる 名寄市のすがた

令和5年度の決算がまとまり、令和6年第3回市議会定例会で認定されました。
 今回の特集では、令和5年度の決算概要と今後の市の財政運営の課題についてお知らせします。

◆問い合わせ

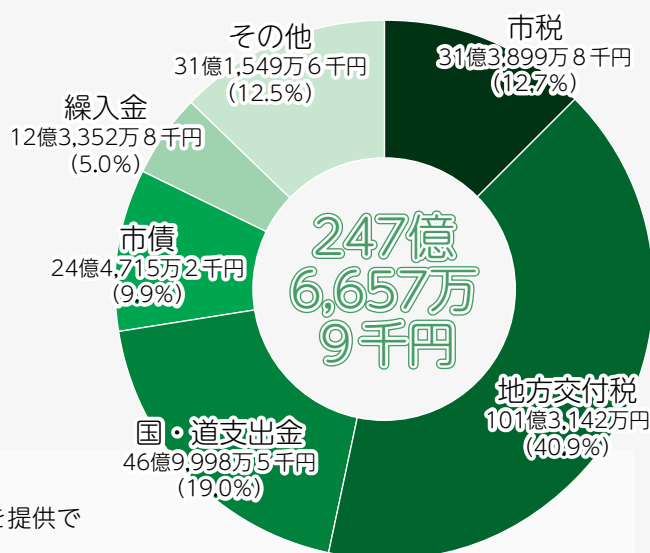
財政課財政係（名寄庁舎3階） ☎01654③2111（内線3331・3332）

令和5年度の決算状況をお知らせします。市では健全な財政を基調としながらも、喫緊の課題解決に対し、力強くスピード感を持って取り組むため、さまざまな分野において事業を実施しました。皆さんから納めていただいた税金など、市に入ったお金がどのように使われたのか、決算の状況と財政状況を中心にご紹介します。

※一般会計…地方公共団体が市税や地方交付税などを財源として、福祉や教育などの行政サービスを行うための「行政運営の基本となる会計」のこと

一般会計決算（歳入）

一般会計の歳入は、は247億6,657万9千円となり、前年度に比べ4億285万5千円の増となりました。主な増加内訳は、繰入金で減債基金を4億円、公共施設整備基金を2億8,739万円、合併特例振興基金を1億9,934万円繰り入れたことなどから、対前年度比49.8%増の12億3,352万8千円となりました。また市債では、認定こども園等整備事業や名寄中学校整備事業、給食センター整備事業の増などにより、対前年度比31.2%増の24億4,715万2千円となりました。



- 市 税 …………… 市民税、固定資産税など
- 地方交付税 …… どの地域に住む住民にも一定の行政サービスを提供できるように国から交付されるお金
- 国・道支出金 … 児童手当、生活保護費や道路、公営住宅建設に伴う負担金など
- 市 債 …………… 主に公共施設整備のための長期の借入金
- 繰入金 …………… 基金（貯金）の取り崩し
- その他 …………… 使用料、利用料、寄付金など

令和5年度の主な事業

認定こども園等整備事業
10億4,936万7千円



智恵文小中学校整備事業
4億2,272万8千円

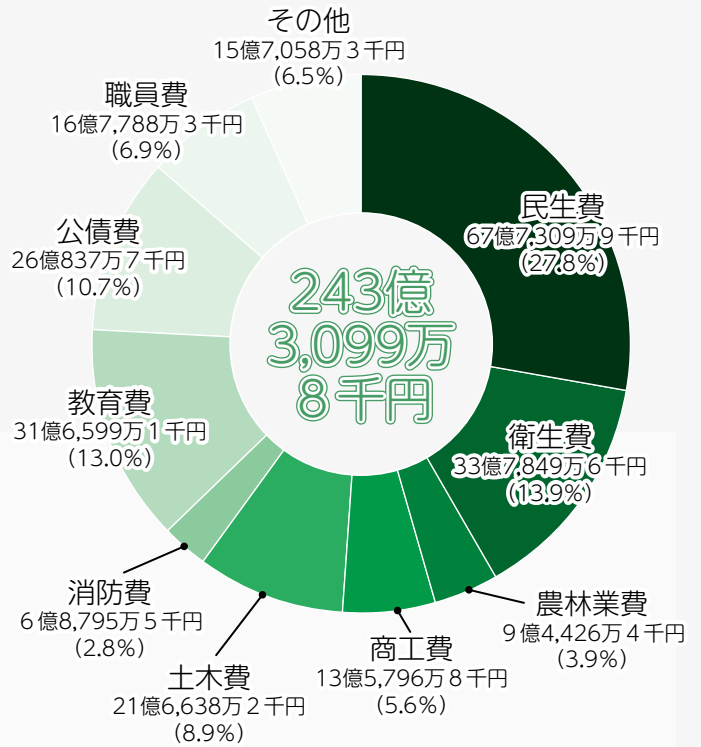


給食センター施設改修事業
1億7,830万6千円



一般会計決算（歳出）

一般会計の歳出は、243億3,099万8千円となり、前年度に比べ3億2,447万8千円の増となりました。主な増加内訳は、維持補修費での修繕料と除排雪経費の増から対前年度比9.8%増の9億6,621万1千円となりました。普通建設事業費では、認定こども園等整備事業、名寄中学校整備事業、給食センター施設改修事業の増などにより、対前年度比9%増の32億6,907万1千円となりました。



民生費 …… 高齢者、障がい者、児童福祉、保育所や生活保護費などに要する経費

衛生費 …… 各種予防接種、保健業務や墓地、火葬場、ごみ収集などに要する経費

農林業費 …… 農業、林業、畜産業などに要する経費

商工費 …… 中小企業支援、商工業の振興、観光などに要する経費

土木費 …… 道路、河川や市営住宅に要する経費

消防費 …… 消防業務に要する経費

教育費 …… 小中学校、市立大学、文化センター、社会教育施設などに要する経費

公債費 …… 市債（借金）の償還金

その他 …… 庁舎管理、バスなどの地域交通、選挙や市議会などに要する経費

特別会計・企業会計

※特別会計…特定の事業やサービスを提供するために、利用者からいただいた保険料や使用料などを財源として事業を運営するために設けられた会計のこと

※企業会計…自ら事業を行い、その事業で得た財源で運営する、民間企業と同様の経理をする会計のこと

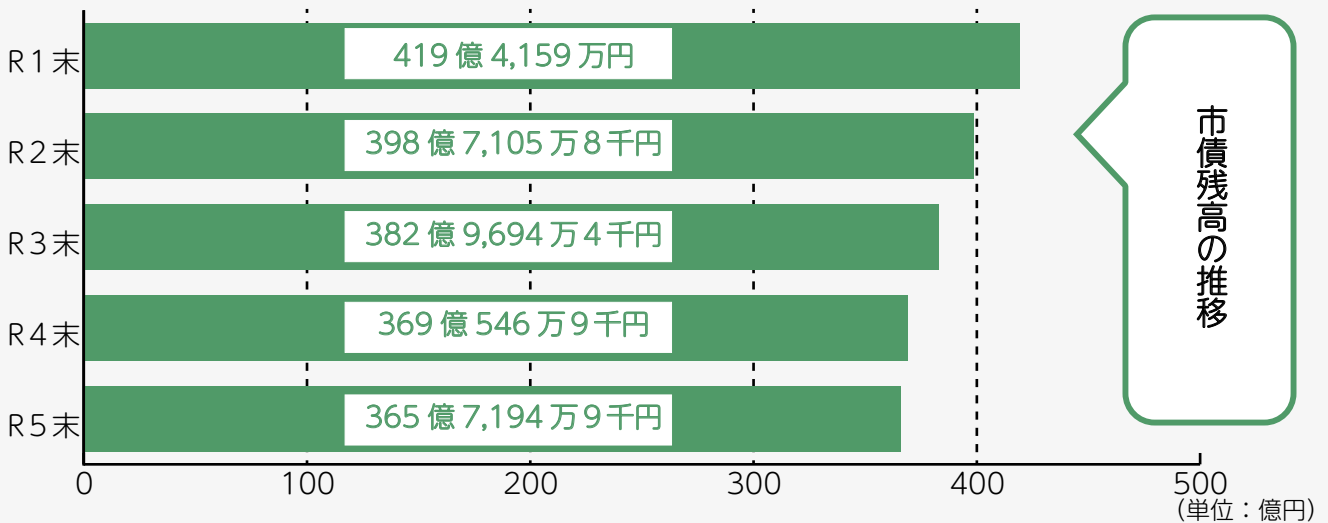
(単位：千円)

会計区分			歳入決算	歳出決算	差引
特別会計	国保	保険事業勘定	2,661,822	2,641,185	20,637
		直診勘定	200,205	200,205	—
	介護	保険事業勘定	2,957,913	2,814,053	143,860
		サービス事業勘定・名寄	364,013	364,013	—
		サービス事業勘定・風連	211,039	211,039	—
		食肉センター事業	160,978	160,978	—
		後期高齢者医療	464,178	464,178	—
		市立大学	1,732,973	1,732,973	—
企業会計		病院事業会計	10,131,681	10,563,542	
		水道事業会計	652,288	699,954	
		下水道事業会計	1,172,884	1,125,544	

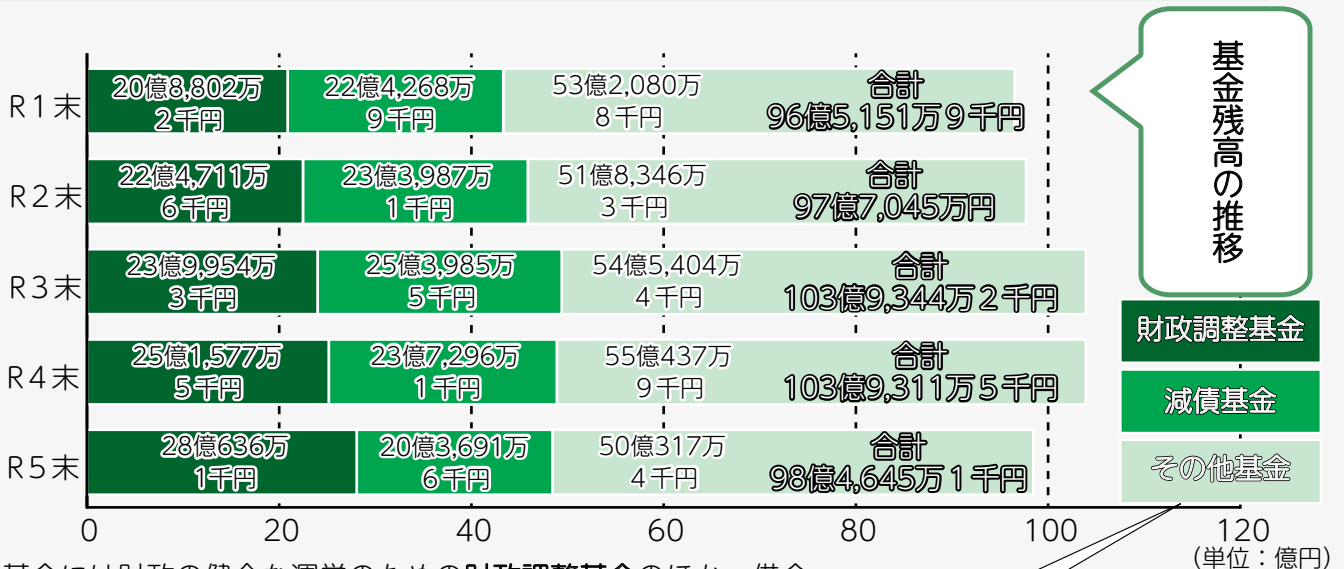
市債（借金）の状況

令和5年度の市債残高は、昨年度と比較して約3億円減少の約365億円となりました。これは、将来世代に過大な負担を残さず健全な財政運営を持続できるよう、市債を返す以上に借りないという財政規律（ガイドライン）を遵守し、市債発行額の抑制に努めたものです。

市債にはさまざまな種類があり、借入額や返済額に応じて地方交付税が交付される市債があります。令和5年度に一般会計で借り入れた約24億円のうち、約16億円が後年度の地方交付税として、国から交付されることとなります。市では、このような市債を最大限活用し、将来的に負担が少なくなるよう事業を行っていますが、市債はあくまで借金であり基金活用とバランスの取れた財政運営が大切だと考えています。今後も将来を見据えた市債や基金の適正な管理に努めます。



基金（貯金）の状況



基金には財政の健全な運営のための**財政調整基金**のほか、借金の返済に充てるための**減債基金**など、特定の目的のための基金があります。

令和5年度の基金残高は、今後の財政運営の備えとして約7億6千万円を積み立てましたが、各基金の目的に沿った事業の財源を補うため基金の取り崩しを行ったことにより、昨年度と比較して約5億5千万円減少の約98億4千万円となりました。

その他基金には…

- ・公共施設整備基金
- ・名寄市立大学振興基金
- ・文化センター大ホール基金
- ・合併特例振興基金

などがあります。

健全化判断比率

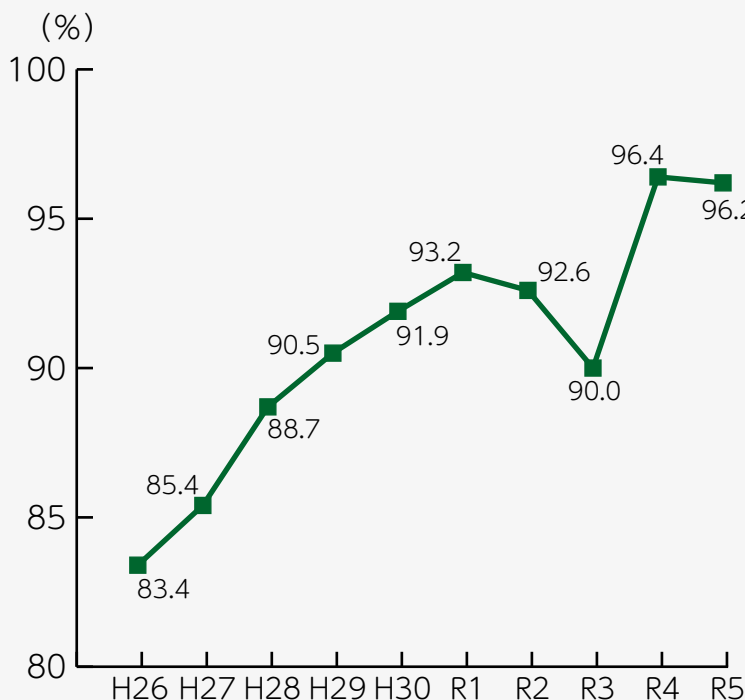
指標名	説明	名寄市	早期健全化基準 (黄色信号)	財政再生基準 (赤信号)
実質赤字比率	一般会計の赤字の比率	—	12.96%	20.00%
連結実質赤字比率	全会計（一般会計、特別会計、企業会計）の赤字の比率	—	17.96%	30.00%
実質公債費比率	地方債（借金）の返済比率	9.9%	25.00%	35.00%
将来負担率	市の借入金（地方債）や将来支払っていく可能性があるお金の割合	9.3%	350.00%	

健全化判断比率とは、財政の早期健全化や再生の必要性を判断するための指標です。

本市の令和5年度決算における健全化判断比率は、昨年度より数値が増加した項目はありますが、早期健全化基準（黄色信号）を下回っているため安全圏にあります。

※表内「—」は実質赤字額がないことを示しています。

経常収支比率



経常収支比率とは、**財政の弾力性**を示す指標で、比率が高いほど（100%に近づくほど）新たな行政上で対応できる余地が少ないことを示します。経常的経費に、経常一般財源がどれだけ使われているかの比率です。

本市の令和5年度一般会計経常収支比率は、前年度に比べ0.2%減少の96.2%となりましたが、これは退職手当給付負担金の減が主な要因であり、影響は令和5年度に限定されたものです。人件費や物件費の増加などに伴い、本市の財政構造は硬直化が進んでいる状況に変わりはないことから、既存事業や業務内容の見直しなどにより、経常的な経費の抑制に引き続き努めます。

名寄市の財政 ～まとめ～

令和5年度決算は黒字となりましたが、現状は基金（貯金）を大きく取り崩して事業を実施しており、このままの状況が続けば現在の行政サービスを続けることが難しくなります。市民ニーズに沿った行政サービスを維持しつつ、最小の経費で確実な効果をあげられるよう事業の内容を十分に検討します。

将来にわたって安心して暮らせるまちであり続けるため、持続可能な財政運営に取り組みます。